

一般社団法人広島県中小企業診断協会 会報誌

診断ひろしま

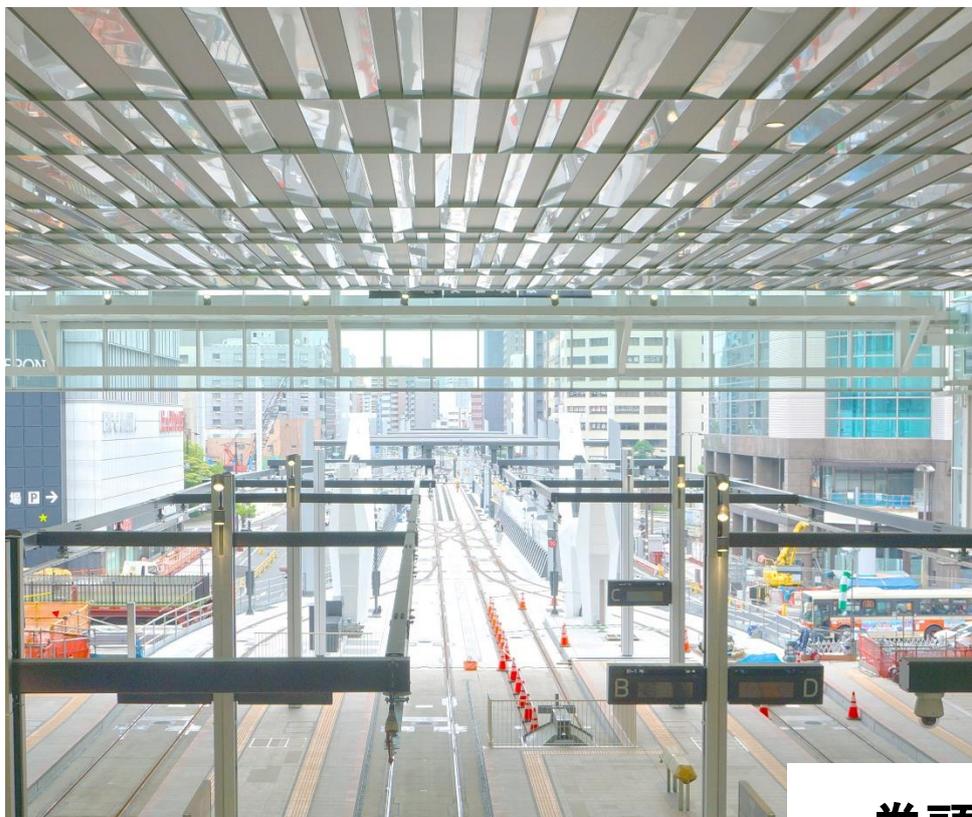
新年度号
SUMMER

2025.7

令和7年7月

vol.

93



巻頭のことば（挨拶・祝辞）
TOPICS – 通常総会報告
実務補習受講報告／新入会員紹介



経営コンサルタント唯一の国家資格「中小企業診断士」が
広島の中小企業の振興と地域経済の健全な発展のお手伝いをいたします



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

www.hiro-smeca.jp

CONTENTS

診断ひろしま 2025 年新年度号

目次



一般社団法人
広島県中小企業診断協会



駅前の様子

表紙写真：広島駅（南方面）
撮影：本庄 恭子

2025 年 3 月に広島駅直結の商業施設「ミナモア」がオープンしました。映画館・屋上広場を備え、約 220 店舗が出店。8 月には路面電車が駅ビル 2 階へ乗り入れる「駅前大橋ルート」が開通し、新たな広島の玄関口が誕生します。

巻頭のことば 新年度のご挨拶

「中小企業診断士協会」間の連携・交流を推進し
地域貢献の向上につなげる

会長 井上 明雄 03

変化はチャンス！中小企業の成長に向けて

中国経済産業局 産業部
中小企業課長 平山 智康 04

新年度の事業活動の推進に向けて

広島県 商工労働局 経営革新課 担当課長
(機動的経済支援担当) 和田 貴博 05

TOPICS

通常総会報告／新年度組織表

06

お知らせ

著書紹介『ケースで学ぶ ものづくり中小企業の戦略～広島から全国、
そして世界への躍進～』

岡本 康昭 08

中小企業経営者・中小企業支援機関ご担当者さまへ（ご依頼・ご相談承り中）

----- 09

実務補習 受講報告

令和 6 年度 冬季 / 8 日間コース

第 5 班（美容業） 秦野 有紀子 10

診断士コミュニティ

随筆・見聞録 瀬戸内国際芸術祭 2025 で現代アートに触れる ----- 山中 智幸 12

書評 NEXUS 情報の人類史（上・下） ----- 青谷 智晃 14

リレー訪問記 藤掛 真行氏 ----- 益野 実 16

新入会員紹介 掲載 2 名（木下 真貴子、内藤 学） ----- 18

おすすめのお店・企業紹介 vol. 7 フレンチレストラン Shimalabo ----- 田村 雅紀 20

令和 7 年 グループ研究会 研究成果発表会のお知らせ ----- 22

活動計画 / 報告

研究会

ISO 研究会	23
建設業研究会	24
企業内診断士の会	25
原価管理研究会	26
事業承継研究会	27
リスクマネジメント研究会	28
知的資産経営研究会	29
日本酒の未来を考える研究会	30

委員会

総務委員会	31
広報委員会	32
試験委員会	33
診断実務委員会	34
更新研修委員会	35
会員研修委員会	36
グループ研究委員会	37

年間主要行事日程 38

事務局からの
お知らせ 39

編集後記
協会会員数 裏表紙

「中小企業診断士協会」間の 連携・交流を推進し 地域貢献の向上につなげる



会長 井上 明雄

2025年の日本経済については、諸物価の高騰や人材不足の状況はあるものの、企業の適正な価格転嫁の進行、賃上げ等による実質賃金の向上、家計消費の節約志向の緩和、企業のDXや脱炭素化、人手不足対策の推進などによる設備投資の拡大傾向が見込まれるなど、全体としては緩やかな持ち直しが期待されていたが、トランプ政権の「相互関税」導入により、その期待は一気に「不安」と「不確実性」の高まりに転換された。

この状況の中、中小企業・小規模事業者においては、継続した課題としての経営革新、生産性向上、省力化、事業承継、資金繰り、事業継続力強化計画の策定及び実効性の向上等の対応に加え、喫緊の課題として上記「不確実性」への対応が迫られる事態となっている。

中小企業診断士には、中小企業・小規模事業者に寄り添う伴走者として、経営者との信頼関係の構築に努め、経営の本質的な課題を抽出し、的確な経営戦略の立案や具体的な解決策の提示を通じて、企業の自己変革力を高めることができるよう、自走化に向けた伴走支援が期待されており、これまで以上に新たな知識の習得、情報収集の強化、それらを活用した幅広い対応力を継続的に向上させていくことの重要性が高まっている。

一般社団法人広島県中小企業診断協会は、「中小企業経営に寄り添い、共に考え、共に歩み、より良い方向に導くパートナーとして、中小企業の成長・発展、地域経済の振興に貢献する」こと

を使命とし、会員の資質向上に向けた研修事業の推進、支援事業の機会の創出と提供、中小企業支援施策や市場動向の情報発信等を通して会員の円滑な活動を支援するとともに、会員相互の情報交流、切磋琢磨を促し、クライアントである中小企業及び中小企業支援機関の満足度を継続的に高めていく活動を推進する。

新年号でお伝えしたように昨年度、47都道府県協会の連合会本部が「一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会」（略称「日診連」、英文略称「JF-CMCA」）に名称を変更した。連合会を構成する各協会には「中小企業診断士協会」への組織名称の統一を促しており、広島県協会においても、「広島県中小企業診断士協会」への名称変更の準備を進めている。名称変更を機に、日本中小企業診断士協会連合会としての組織力および連携の強化、中小企業診断士のブランディング向上を進める。

連携強化の面では、広島県協会は、新たに中四国ブロック情報交換会や大規模災害被災都道府県協会会議に参加しており、今後はさらに、地域ブロック間の交流、遠隔地の中小企業診断士協会間の連携など多様な形の取り組みが推進される。

これらの連携や交流の成果が、「広島県中小企業診断士協会」としての取り組みや個々の会員の支援活動の質的向上につながり、中小企業の成長・発展、地域経済の振興に貢献する大きな力となることを期待する。

変化はチャンス！ 中小企業の成長に向けて

中国経済産業局 産業部
中小企業課長 平山 智康



一般社団法人広島県中小企業診断協会及び会員の皆様におかれましては、平素から経済産業行政及び中小企業政策の推進にあたり多大なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて昨今、エネルギー・原材料価格高騰、物価の上昇、構造的な人手不足など、中小企業等の経営環境は多くの課題が顕在化し、厳しい状況であると認識しております。さらに今年4月に米国の追加関税措置の発効と相互関税の発表があり、中小企業等のビジネス及び経営の安定性に大きな影響を及ぼしています。国は、「米国関税措置を受けた緊急対応パッケージ」を公表し、影響を受ける企業への資金繰りを始めとした支援の強化、産業構造の転換と競争力強化など、中小企業等の事業継続・発展を後押しすることとしております。今後とも、米国との協議状況や、我が国産業界・企業などの現場の声をよく聞き取りながら、必要な施策を追加・展開して参ります。

しかし、こうした厳しい状況の中でも、中小企業等には大きな可能性があります。中小企業は、日本の企業全体数の約99.7%を占め、雇用の約70%を支える重要な存在であり、地域経済及び課題解決の担い手として、地域のニーズに細やかに対応する役割も期待されています。

今年4月に閣議決定された「2025年版中小企業白書・小規模企業白書」では、積極的な設備投資・デジタル化とグリーン経済への対応、適切な価格設定・価格転嫁の推進により、付加価値や労働生産性を高める経営に「転換」していくことが必要としています。デジタル技術の導入は、業務効率の向上や新たなビジネスモデルの構築に寄与し、競争力を高めるチャンスをつくります。また、環境への配慮が求められる中で、持続可能な経営を実現するための取組も重要です。

このため、国は、国内投資・イノベーション・

所得向上の好循環を実現する「成長型経済への転換」を目指し、①新たな付加価値を生む成長投資促進のための構造改革、②物価高・人手不足の状況下でも持続的に成長できる地方経済・産業の再構築、③成長投資を実現する経済基盤の強化（資源エネルギー、通商・経済安保）という3本柱に沿った経済産業政策を推進します。

そのための中小企業等支援では、「中小企業等経営強化法」に基づく経営力向上計画の策定支援や、デジタル化を促進する「IT導入補助金」、生産性向上を図る「中小企業省力化投資補助金」「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」など、様々な施策を打ち出しています。

また、地域資源を活用した新商品開発や、地域内外のネットワークを活用した事業戦略も成長の鍵となります。中小企業等と地域金融機関などの支援機関を効率的にマッチングし、成長志向の中小企業等の挑戦の後押しや経営課題の解決に繋げる「成長加速マッチングサービス」も今年3月に新たにリリースし、支援の強化を図っております。

これら施策を上手に活用し、「変化はチャンス」として今後の事業を切り開いていきましょう。事業環境の変化に対応した新たなビジネスモデルの構築や競争力強化の実現など、こうした努力が地域社会や経済全体に元気を与えると期待しております。

広島県中小企業診断協会及び会員の皆様におかれましては、日頃多くの課題を抱える中小企業等に寄り添い、ご支援いただいておりますことに深く敬意と感謝を表します。今後とも、将来に向けて果敢にチャレンジしようとする中小企業等を引き続きご支援いただきますようお願い申し上げますとともに、貴会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念いたします。

新年度の事業活動の 推進に向けて

広島県 商工労働局 経営革新課
担当課長 （機動的経済支援担当）
和田 貴博



一般社団法人広島県中小企業診断協会の令和7年度通常総会を滞りなく終えられ、新年度の施策方針と重点施策の下で事業活動に取り組まれることを心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和34年の設立以来60年以上にわたり、国家資格である中小企業診断士相互の連携と資質の向上に努められ、本県の中小企業の発展や地域経済の振興に寄与されてこられました。

県内中小企業者が取り組む経営革新計画の策定におきましては、貴協会の皆様からの御支援をいただいておりますことを、改めて感謝申し上げます。

さて、本県経済は、緩やかな回復基調ではございますが、消費者物価上昇による個人の消費意欲減退が懸念されるところでございます。

さらに、海外に目を向けますと、米国新政権の関税引上げなどによる県経済への影響が不透明であることから、引き続き県経済の動向を注視していく必要があると考えております。

こうした中、本県では、人口減少対策、人手不

足対策、AI活用をリードする取組、観光の更なる振興等の取組に、重点的に取り組んでまいります。

特に人手不足対策として、様々な業界のDXの推進に向け、引き続き、企業内のビジネス変革を牽引する中核的人材を育成するプログラムを実施するとともに、今年度からは新たに、県内製造業企業に対し、専門家チームを活用した自動化・省力化システムの導入等に向けた伴走支援を行うなど、企業の生産性の向上の支援に取り組んでまいります。

中小企業診断士は、中小企業の経営課題に対応する身近な専門家として経営の診断や助言を行うだけでなく、中小企業と行政をつなぐ架け橋として、中小企業施策の適切な活用支援等の幅広い活躍を期待されております。

一般社団法人広島県中小企業診断協会におかれましても、国の指定法人として中小企業診断士制度の更なる発展に御尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々の御発展と御健勝を祈念いたします。



令和7年度通常総会 報告

総務委員長 田村 善光

令和7年6月7日（土）16時よりメルパルク広島の瑞雲において
会場とリモート併用のハイブリッドで通常総会を開催した。
井上議長が進行し、3議案は承認可決された。

令和7年6月7日（土）16時よりメルパルク
広島の瑞雲において会場とリモート併用のハイ
ブリッドで開催した。

井上会長の総会開始にあたっての挨拶の後に、
会場出席者36名、リモート出席者9名、議決権
行使113名、合計158名で、総正会員及び名誉
会員の総数212名の過半数を超え、定足数を超
えており総会が成立したことを確認した。

井上議長により総会が進行した。

まず、議事録署名人を落野 洋一会員と金田
賢二会員に決定した。

次に、第1号議案の令和6年度事業報告を井
上会長が、令和6年度正味財産増減計算書・貸
借対照表を谷本事務局長が、監査報告を岩井屋
監事が説明し、第1号議案の承認を得た。

次に、第2号議案の令和7年度事業計画を井
上会長が、令和7年度正味財産増減予算書を谷
本事務局長が説明し、第2議案の承認を得た。

次に、第3号議案の「定款及び会員に関する
規則の変更」のうち第3号議案-1の「名称の変
更」について谷本事務局長が説明し、第3議案
-1の承認を得た。

次に、第3号議案の「定款及び会員に関する
規則の変更」のうち第3号議案-2の「みなし退
会の期間短縮」について、谷本事務局長が説明

し、第3議案-2の承認を得た。

これをもって、令和7年度総会が終了した。

引き続き、令和6年度の連合会会長表彰を執
り行い、畑井 謙一会員が表彰された。欠席のた
め、後日案内することとなった。



総会の後、17時30分よりメルパルク広島の
瑞雲において懇親会が開催された。司会は濱上
敬介会員が行った。

16名のご来賓の参加を頂き、井上会長の挨拶
の後に、中国経済産業局産業部中小企業課長
平山 智康様と広島県商工労働局経済革新課担
当課長和田 貴博様からお言葉を頂き、中小企業
基盤整備機構中国本部本部長西 祐喜雄様によ
る乾杯が行われた。また、新たに広島県中小企業
診断協会に入会した6名の会員が自己紹介を行
った。

令和7年度 役員・委員名

役員	代表理事 / 会長	井上 明雄		
	副会長	大村 貞之	岡 佳弘	小寺 崇之
	理事	岩田 潤一	落野 洋一	金田 賢二
		上垣内 邦典	木村 義洋	黒川 睦郎
		田村 善光	古川 佐千夫	
	監事	岩井屋 忠昭	松浦 由浩	
顧問	江川 雅典			

委員会	委員長	副委員長	委員	
			総務委員会	田村 善光
広報委員会	古川 佐千夫	本庄 恭子	青谷 智晃 三本木 至宏 土井 誠	伊垣 洋介 田村 雅紀 原 信之介
試験委員会	木村 義洋	松浦 由浩	岩井屋 忠昭 馬上 元彦 内藤 憲 牧野 恵美子	植田 昌子 梅木 雄司 藤原 貴徳 渡部 宗広
診断実務委員会	落野 洋一	—	佐伯 昌之	野崎 義博
更新研修委員会	金田 賢二	塩田 睦大	高木 健次 宮坂 夕貴	藤川 裕志 森島 重樹
会員研修委員会	上垣内 邦典	—	伊藤 大介 山口 卓	大島 季子
グループ研究委員会	岩田 潤一	伊藤 圭介 鉄本 一生	市岡 沙有理 川口 明彦 益野 実	岡本 志朗 西村 賢志

事務局長	谷本 俊満	事務局主任	村戸 望佐
------	-------	-------	-------



著書 紹介

ケースで学ぶ ものづくり中小企業の戦略 ～ 広島から全国、そして世界への躍進 ～



出版社：同文館出版
編著：岡本 康昭、野北 晴子、
加藤 博和
204 ページ / A5 判
価格：2,530 円（税込）

広島経済大学 経営学部 教授
中小企業診断士

岡本 康昭



本書は、広島県内の中小製造業経営者を招いて行った大学講義をもとに編まれたものである。講義では、現場で培われた実践知を学生に伝えることを目的としたが、その内容は学生にとどまらず、地域産業の現状と可能性に興味をお持ちの多くの方々に共有すべきものと考え、書籍化に至った。

県協会の皆様には今更ではあるが、ものづくり大国・日本の産業競争力を支えているのは大企業だけではない。独自の技術やビジネスモデルを武器に、厳しい市場環境の中で挑戦を続ける中小企業こそが、日本経済の基盤を形成している。本書は、そのような企業の経営戦略と組織文化、意思決定の背景を、広島という地域性と結びつけて具体的に描いたものである。

広島県は、歴史的に安芸と備後という異なる地域性を持つ。安芸は、軍事拠点として先端技術が集積し、自動車産業などの企業城下町的な産業構造が産み出され、発展を遂げた。一方、軍需の影響が少なかった備後では、地域資源や職人技を活かした独立型・オンリーワン型企业が数多く育っている。本書では、このような地域的背景も踏まえ、企業と地域の関係性についても考察している。

取り上げたのは以下の 12 社である。賀茂鶴酒

造、三宅といった長寿企業。三島食品、研創といった全国展開を果たした企業。白鳳堂、カイハラなど、海外市場で高く評価される企業。さらに、サタケ、常石造船といったグローバル企業や、農業分野で新たな事業展開を行う平田観光農園、田中電機工業なども紹介している。加えて、地域産業を象徴する存在としてマツダとダイキョーニシカワにも触れている。

各企業のケースには、経営者の決断、技術革新の経緯、失敗と学び、そして競争力の源泉がリアルに描かれている。ときにドラマのようでもあるその軌跡は、決して平坦ではなく、経営理論だけでは説明しきれない現場の複雑さと深さを物語っている。

中小企業が担う役割は、単に雇用や所得の確保にとどまらない。成熟化・人口減少・高齢化が進む地域社会において、地域に根ざしながらも世界を見据える企業の存在は、持続可能な経済と社会を実現する上で不可欠である。本書が、地域発の中小企業の挑戦と進化を理解し、そこから学び取る一助となれば幸いである。

最後になりますが、県協会の井上会長には、本書の出版趣旨にご賛同を賜り、帯にありがたい推薦のお言葉をお寄せいただきました。ここに改めて、心より深く御礼申し上げます。

中小企業経営者・中小企業支援機関ご担当者さまへ

経営改善・資金繰り改善・補助金活用・
販売促進・生産性改善・事業承継・IT/DX

経営のお困りごとは 中小企業診断士へ

このままではいけない…
と思っている方
一度ご相談ください

私達は中小企業に役立つ各種専門分野を
日々研究し続けています！

ISO 研究会

建設業 研究会

資金繰り表 研究会

原価管理 研究会

事業承継 研究会

企業再生実践 研究会

「グループ研究会」へのご依頼・ご相談承り中！

経営コンサルタント唯一の国家資格「中小企業診断士」が、研究分野の専門性を活かした、経営診断・助言・セミナー・研修会開催などを実施します。

ホームページから、お気軽にお問い合わせください。

当協会のグループ研究会では、研究分野の専門性を活かした経営の診断や助言をはじめ、セミナー・研修会等を随時実施しております。

協会ホームページ上にグループ研究会へ直接連絡可能な「ご依頼・ご相談窓口」を設置しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



広島県中小企業診断協会ホームページ www.hiro-smeca.jp



経営者・支援機関さまへ

グループ研究会へのご依頼・ご相談
研究分野の専門性を活かした
支援・セミナー等を実施します

各研究会の研究内容・支援内容についてはこちらをクリック！



(注) 報酬その他要件は、研究会「ご依頼・ご相談窓口」へ直接メールでお問合せください。なお、ご依頼・ご相談にかかる一切の行為について、一般社団法人広島県中小企業診断協会は、何ら責任を負うものではありませんので予めご了承ください。

実務補習
受講報告令和6年度 冬季/8日間コース
第5班 受講報告

実務補習受講生：高木 周一、高橋 義也、
玉置 卓也、俊成 直哉、秦野 有紀子（文責）

1. はじめに

令和7年2月21日から3月3日まで、古川佐千夫先生ご指導のもと、5人のメンバーで初め

ての実務補習に臨んだ。先生の雰囲気づくりのおかげですぐに打ち解けることができた。

2. 診断先企業の概要

診断先は、美容業を主力に多店舗展開をしている県内有数規模の企業であった。社長は従業員のやりがい追求すべく、彼らの声に耳を傾け、働きやすい環境を整備することに尽力し、

一代で現在の事業規模にまで拡大したカリスマ社長であった。一方の財務状況は、旗艦店の直近3期の売上高こそ増加していたものの、販管費がかさみ営業赤字となっていた。

3. 実務補習の所感（1～4日目）

ヒアリングでは、幹部社員から詳細な情報を聞くことができた。彼らの経営参画への強い自覚と高いコミットメントには驚くばかりであった。しかし、ヒアリングでは核心を得られなかった。なぜなら、我々にはまだ診断のダイナミズムというものが分かっていなかったからだ。

会議室に戻ってインタビューメモを作成した後、各自でSWOTを書き出し、翌日全員でぶつけた。経営課題と革新的提言は宿題となった。

3日目の朝、クラウドにあった全員の宿題を一読した先生から愛ある檄が飛んだ。経営者が

毎日どんな思いで重責と闘っているか。時に押し潰されそうになる経営者に寄り添い、守ってやるのが我々診断士の仕事だと。それなのに何を弱腰になっている。なぜ自信を持って考えられない。事前課題でしっかり資料を読み込んできたのではなかったか、と。

そのとき、「自分なりに読んできたが…」としか思えなかった自分の甘さを恥じた。同時に、全員の目の色が変わった。

4. 実務補習の所感（5～8日目）

この頃ようやく、診断のダイナミズムというものに気づき始めていた。人材の有効活用なら無駄をなくせばいい。販管費を抑えれば収益性は改善するだろう。しかしそれらを実行したとて企業の成長につながるイメージが持てなかった。なぜなら、その無駄こそが“ブラックボックス”（因果曖昧性）の源泉だったからだ。

当初私は、店舗間のコンセプトの違いや託児所事業の累積赤字が気になっていた。でもそんなことは問題ではなかった。従業員の声を聞き、惜しみなく投資する。どんどん支出して、それ以上に売り上げる。仲間と楽しく働いてやりがいを感じてほしい。そんな社長の思いが伝わっていたからこそ“ブラックボックス”が大きな売上をもたらしていたのだ。我々はすっかりその企業に魅入られた。ファンになった。

まもなく担当パートの報告書作成に入り、経営戦略担当の私は経営課題と革新的提言を 이슈ーツリーにまとめた。すると人事・組織戦略担当者が「すごくいい！」と反応してくれた。

後に彼が出してきた成果物は圧巻だった。知りたいことへの答えが、一切の妥協なくすべて用意されていた。彼の本気を見た気がした。

隣の席の財務管理担当者はいつも冷静、的確。優秀な参謀（GPT?）として頼りきっていた。あるとき彼が診断先のことを「うちは～」と言った。冷静に見えた彼も熱が入っていると知って嬉しかった。ますます信頼できると思った。

営業戦略担当者は寡黙で一人で抱えがちだったが、これと思ったことに突っ込むエネルギーには目を瞠るものがあった。彼にとっては苦手なタスクが多く辛い毎日だったかもしれないが、最後までよく食らいついてくれたと思う。

中計策定担当者は、最年少でありながらキャッシュフロー倍率大幅改善を見込むドリームプランを描き、最後に企業価値までぶち上げた。優秀なだけでなく素直で育ちが良く、周囲への配慮も忘れない。ランチの店選びのセンスも抜群で、MD（＝飯ディレクター）を見事に務め上げてくれた。

5. 最後に

我々は、最後まで診断先のことでも頭をいっぱいにしてきた。皆のその渾身の提案を一点の曇りもなく先方に伝えたい、その一心だった。報告会での皆のプレゼンが120点の出来だったことは言うまでもない。心からと分かる御礼を言われ、万感の思いで診断先を後にした。あるべき経営者像を体現された社長の姿は、我々に

とって生涯の指針となり、これからも診断先企業の行く末に思いを馳せることになるだろう。

このように、最高の先生と最高の班員、最高の診断先に恵まれたおかげで、心揺さぶられる8日間となった。先生の含蓄ある数々のお言葉は皆の胸にも刻まれていることと思う。古川先生と班員とのご縁に心から感謝している。



美容業を主力に多店舗展開をしている企業に、
班員それぞれが渾身の提案を行いました。
心揺さぶられる8日間となりました。



随筆・ 見聞録

瀬戸内国際芸術祭 2025 で現代アートに触れる

中小企業診断士 山中 智幸

「瀬戸内国際芸術祭 2025」が開幕した。この原稿を執筆したときは春会期の開催中であり、この機会に会場となる直島、小豆島、男木島、女木島を訪れたので、この芸術祭の様子を紹介したい。

まず、瀬戸内国際芸術祭の概要であるが、公式ホームページを引用すると、「瀬戸内の島々を舞台に、3年に1度開催される現代アートの祭典です。約100日間の会期は、春・夏・秋の3シーズンに分かれていて、季節ごとに瀬戸内の魅力が体験できます。期間中は約100万人の人々が国内外から訪れる日本を代表する国際的な芸術祭です。」とのことである。

会場は、瀬戸内の島々と沿岸部の全17エリア。トリエンナーレ形式（3年に1度）で開催されており、今回が第6回目の開催となり、かなり定着してきているのではないだろうか。

さて、今回、5月9日（金）から11日（日）までの2泊3日の日程で、初日に直島、2日目に小豆島、3日目に男木島、女木島を訪れたので、その主なものを紹介したい。

【直島】

アートの島として知名度があり、「草間 彌生のかぼちゃ」や「家プロジェクト」などが展示されている。

「家プロジェクト」については、集落の中にある家屋や神社などを改修して展示空間（インスタレーション）として活用しており、アートが町と融合している様子を感じることができる。

今回の芸術祭にかかわらず、常時展示され、国内外から多くの人を引き付けており、現代アートの持つ力を感じることができるといえよう。



左：草間 彌生「南瓜」

右：ヤン・ヘギュ「ヤンの太陽」

【小豆島】

醤油・そうめん・オリーブ・少し古い映画のロケ地（24の瞳）のイメージが強かったが、芸術祭にあわせて訪問したところ、新たな魅力を感じることができたので、特徴的なものを紹介する。

～島の特徴を生かした展示作品～

本土との玄関口である土庄港には、オリーブの王冠の形をした作品が展示され、フォトスポットとなっており、オリーブの島に来たことを感じることができる。

また、土庄町の中心集落には「迷路のまち」といわれる入り組んだ古い町並みがあるが、その街並みから着想し、一軒家を改修してインスタレーションとして活用した作品が展示されている。この作品も迷路のまちの中にあり、迷いなが

らたどり着いたが、この作品内部も入り組んだ洞窟ようになっており、まちの雰囲気を追体験できるようになっている。



左：チェ・ジョンファ「太陽の贈り物」
右：目「迷路のまち～変幻自在の路地空間～」

～島の自然に触れられる展示作品～

この作品が展示されている中山地区は島の内陸部にあり、特に目立った観光地は無いが、日本の原風景の様な美しい棚田がある。そこに竹を用いて巨大なドームを制作した作品である。中に入ることができ、自然を感じながら気持ちよく過ごすことができる。また、訪れた際は田植えの時期であり、作業の様子を見ることもできた。



ワン・ウェンチャー「抱擁・小豆島」

【男木島、女木島】

多分芸術祭の機会がなければ、訪れることは無いと思われる島であるが、島へ行くフェリー

が客で一杯になるほど多くの人を訪れていた。

女木島には、「鬼ヶ島大洞窟」といわれる観光スポットがあるものの、それ以外は目立った観光地は無いが、瀬戸内海の島々を見渡すことができる。作品にもそういった景色と一緒に楽しめるものがあった。特に女木島の「段々の風」は、小高い段々畑の場所にあり瀬戸内海と町並みを借景に作品を鑑賞できる。作品も鬼ヶ島大洞窟で見ることができ、高松市の天然記念物となっている「柱状節理※」を感じさせるものであり、島の特徴がよく表れていると感じた。

※ 節理と呼ばれる規則性のある割れ目を持つ地質構造



左：杉浦 康益「段々の風」（女木島）
右：山口 啓介「歩く方舟」（男木島）

これまで「瀬戸内国際芸術祭 2025」を鑑賞した様子をお伝えしてきた。期間中は国内外を問わず多くの人を訪れており、現代アートが持つ集客力を実感できた。また、瀬戸内の島と一口に言っても自然、文化など、それぞれの固有の特徴があり、それが現代アートによってより鮮明に感じることができるようになり、それが地域の魅力向上に繋がっていると感じることができる。

夏会期は、8月1日～31日、秋会期は10月3日～11月9日までの開催となるので、是非この機会に訪れていただき、その魅力を実感してみたいだろうか。



書評

『NEXUS 情報の人類史（上・下）』

中小企業診断士 青谷 智晃



著者：ユヴァル・ノア・ハラリ(著)

柴田 裕之(翻訳)

出版社：河出書房新社

発行日：2025/3/5

価格：各 2,200 円(税込)

宗教、国家、貨幣といった「共有されたフィクション」は、人々を結びつけ、社会の基盤を形成してきた。情報ネットワークが、我々の理解やコントロールを超えた AI によって支配されるようになったとき、社会はどうなるのか。AI が社会に与えるインパクトを改めて強く認識させられる一冊。

これは、歴史家によって書かれた AI に関する書籍である。「歴史家が AI について語れるのか」と疑問に思う向きもあるだろう。しかし、『サピエンス全史』などでベストセラーを連発している著者のハラリ氏は、現在ではシリコンバレーの AI 企業のトップたちとも議論を交わす存在となっており、最先端の AI についての知識も深いという。

そんなハラリ氏が AI について論じる際に注目したのが「情報ネットワーク」という概念である。人類（ホモ・サピエンス）が地球上で優位に立てた理由の一つは、見知らぬ他人とも共通の概念や信念を共有できる能力にあるというのが、著者の一貫した主張だ。特に、宗教、国家、貨幣といった「共有されたフィクション」は、人々を結びつけ、社会の基盤を形成してきた。つまり「情報」とは、単なる事実の伝達手段ではなく、

人間同士をつなぐ媒体でもあるというわけだ。そして、その情報を伝達する技術の進化（楔形文字、パピルス、印刷術、ラジオ、テレビ、インターネット…）が、社会にどのような影響を与えてきたかについて、著者はいくつもの具体的な事例を挙げつつ、詳細に論じている。ここでは、その中から 2 つの悲劇的な事例を紹介したい。

1 つ目は、中世ヨーロッパの「魔女狩り」である。著者は、印刷技術の発展が魔女狩りを加速させたと指摘している。1440 年頃、グーテンベルクによって活版印刷術が発明されたことで、情報流通は劇的に拡大した。その結果、科学的知識や宗教的教義が広まった一方で、虚偽の情報や誤った信念も容易に拡散されるようになった。特に 1486 年に出版された『魔女への鉄槌』は、「魔女の存在」を信じ込ませ、拷問による自白を正当化する内容であり、魔女狩りの理論的支柱

Book Review

となった。この書物は当時のベストセラーとなり、魔女狩りは17世紀まで続いた。犠牲者は数万人にのぼるとされている。著者はまた、魔女狩りが単なる宗教的熱狂ではなく、社会的・経済的な構造の一部として機能していたことにも言及する。魔女狩りは、権力者や教会が社会統制を強化する手段として利用し、経済的利益や社会的地位の維持にもつながっていたという。

2つ目は、現代ミャンマーにおけるロヒンギャ族への迫害の事例である。ここでは、FacebookなどのSNSにおけるアルゴリズムの働きが重要な働きをしたとされている。SNSでは、「いいね」の数や閲覧時間といったエンゲージメントを重視するアルゴリズムが使われており、その結果、感情的で過激な投稿が優先的に拡散される傾向がある。ロヒンギャ族に対するフェイクニュースや差別的な投稿も、こうして急速に広まり、偏見や敵意を助長する土壌が作られた。これらのアルゴリズムは、広告収入を最大化することを目的として最適化されているが、社会的分断や暴力を引き起こすリスクについてはほとんど配慮されていないと著者は指摘する。

そして今、情報ネットワークの主役にAIが登場しつつある。著者はこの現状に強い危機感を示している。たとえば、魔女狩りのような歴史的イベントについては、現代の我々はそれが誤った認

識に基づく過ちであったと理解することができない。また、ロヒンギャ族への迫害についても、アルゴリズムがどのように機能したのか、辛うじて理解は可能であり、対策も考えられる。しかし、AIがさらに高度化していくと、人間がそのアルゴリズムを理解すること自体が難しくなっていく（実際、囲碁の世界ではすでにAIが打つ「最善手」は、人間には理解不能となっていると聞く）。我々のもとに届く情報の多くが、AIが作成し選別したものになっていくのも時間の問題だろう。こうして、情報ネットワークが、我々の理解やコントロールを超えたAIによって支配されるようになったとき、社会はどうなってしまうのか、想像するだけでも背筋が凍る思いがする。

著者は、AIによる情報支配を避けるための方法についても多くの提案をしているが、残念ながら決定的で説得力のあるような解決策の提示まではされていないように感じる。まずは、我々がAIの持つ危険性を正しく理解し、日々あふれる情報とどう向き合うかをじっくり考えるところから始めるしかないだろう。

AIの出現がこれまでとは次元の異なる大きなインパクトを社会に与えることになる可能性を改めて強く認識させられる一冊である。



「随筆・見聞録」「書評」コーナー執筆者募集中！

「随筆・見聞録」「書評」コーナーは、長らく企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）の先生方のご協力のもと、連載を続けております。

改めて深くお礼申し上げます。

ご講読の先生方も、診断士として思うこと、日常の中で感じること、おすすめの書籍等、ぜひご投稿ください。ご連絡お待ちしております！

診断士リレー訪問記



ますの みのる
中小企業診断士 益野 実



ふじかけ まさゆき
中小企業診断士 藤掛 真行 氏



今回は「企業内診断士 診断能力向上研究会（企業内診断士の会）」や福山市中央図書館で開催されるビジネス相談会にて、いつも大変お世話になっている藤掛 真行さんをご紹介します。

現在のお仕事のことから、診断士活動の取組、今後の活動といろいろお伺いしました。



金融機関に30年以上在籍している企業内診断士です。「企業内診断士の会」には資格取得とほぼ同時に入会、その後、「事業承継研究会」にも入会しました。会社以外の交友関係が格段に広がったことが資格取得の最も大きな収穫だと実感しています。

Q1：これまでの金融機関勤務について教えてください。

私の金融機関勤務は、平成のほぼ全期間、及び、コロナ禍を経て現在に至ります。会社勤務も折り返し地点をとくに経過して終盤に至ったところ です。

勤務経験の前半が、不良債権問題から金融危機、そしてメガバンク誕生までの期間と重なり、メディアで経済・金融が話題とならない日が無いような毎日でした。そうした時期に、金融機関の一員として舞台裏の一旦を目にすることができたのは得難い経験だったと思っています。

勤務経験の後半では外交から離れましたが、外交員としての経験は、相手次第でカメレオンのように臨機応変に対応し、短時間で人間関係を構築することが求められる「良き聴き手」となる為の経験の積み重ねであったと思っています。

Q2：診断士を目指そうと思ったきっかけは何ですか？

20代の頃から、銀行員の専門性は何なのだろうかと自問しながら勤務を続けていたように思います。若い時分は社会人として学ぶことも多く、業務に関連する知識の学習も必要であったため、立ち止まる余裕もなく走り続けるような状態でしたが、自分の経験や交友関係が勤務している会社に大きく依存してしまうことに対す

る漠然とした不安を抱いていました。「未知の未知」に対する不安も感じ続けていたと思います。そうしたなかで、専門的な知識を幅広く体系的に身に付けたいという思いは心の中にあり続けたのではないかと思います。

資格取得の勉強を始めたのは経済団体に出向していた期間でした。これまでと違った視点で周囲を見渡す機会を得たことがきっかけになったのかもしれないと思っています。とは言っても、勤務時間が不規則で、自由な時間が増えたわけではなかったように記憶しています。初めての二次試験受験日の直前ほぼ1週間が、中国地方の複数の事業者さんが出展する展示会の準備と開催期間中にあたり、出張中に滞在しているホテルでの試験勉強であったことなど、今となってはいい思い出です。さすがに、二次試験合格は翌年でした。

Q3：ご自身の強みを活かしていこうと思うことは何ですか？

私の場合は融資担当の期間が長いので、これまでに、手書きの確定申告書から有価証券報告書まで、ありとあらゆる業種・業界の数千件以上の財務資料を目にしてきました。パソコンが普及し、システムが導入されるまでの貸出審査書類は、かなりの部分が手書き・手計算でしたので、財務諸比率などについては電卓をたたいて書類に書き込む作業が必要でした。残業時間が



長くなるのも当然で、現在とは比較にならない非効率とは思いますが、10年以上かけて演習を繰り返していたことにはなりません。財務情報を目にして直感的に違和感を感じ取る感度や事業のイメージを思い浮かべることができる感性は、経験の積み重ねによってはじめて身につくものではないかと思っています。

Q4: 企業内診断士の会のビジネス書班でもご一緒させていただいています。これまでに読まれた書籍で感じたことや得たことがあれば教えてください。

読書は楽しみと考えています。大学生の時に海外ミステリーを読み始めて以降、社会人になってからも、ジャンルは様々に年間50冊程度を読了しています。年間最大は70冊以上でした。海外文庫のカテゴリーに限って言えば、実家にある本棚は、八丁堀の丸善の蔵書をはるかに超えると思います。

経済学部出身で、経済書は読み続けていましたが、ビジネス書を多く読むようになったのは中小企業診断士の資格取得後のことです。資格取得直後数年は、一年間で読み終える本の8割がビジネス書でした。そもそも、独学で中小企業診断士の受験勉強をしていた私は、テキストこそTACのシリーズを使用しましたが、内容を理解するために、並行して企業経営理論やマーケティング理論の専門書を読むといった特異な試験勉強をしていたので、その延長であったと思います。

私の読書歴の中で日本の作家の著作は限られているのですが、池波正太郎は大事なコレクションです。人が良い面(社会のルールを守って生きることや利他的なこと)と悪い面(時に社会のルールを逸脱することや利己的なこと)の両方を併せ持つという二面性、合理性では説明できない人間の行動、自分自身の価値基準を持つことの大事さについて考えるきっかけともなった「仕掛人梅安」や「鬼平犯科帳」は、時に読み返したくなります。「鬼平犯科帳」の長谷川平蔵が、自分にとってのリーダー像の理想形のひとつであるだろうと考えています。

Q5: 映画をよく鑑賞されています。最近鑑賞された映画で感じたことや得たことがあれば教えてください。

劇場公開後の配信が当たり前になった今でも、年間30回以上映画館に足を運ぶ、筋金入りの映画ファンです。

映画鑑賞についても楽しみだと考えています。基本的に娯楽作が好きなので、しかもめっ面をして講釈するような鑑賞はしたくありませんが、社会的なメッセージを含んでいたり、世相を反映した作品からは多くの気付きを与えられることもあります。ロシアのウクライナ侵攻直後に応援上映としてリバイバル上映された「ひまわり」など、何十年も見ていなかった名作を、年齢を重ねた今見直すと、登場人物に対する感じ方が変わったことに気付かされました。

近年の作品では、二部作で公開された「DUNE/デューン 砂の惑星」は、とても見ごたえのある作品でした。最新の映像技術が素晴らしい娯楽大作ですが、主人公がリーダーとして認められるまでの通過儀礼を描いた物語という観点から見れば、リーダーの資質や、カリスマ性、必要とされる覚悟についてを描いていると考えられると思います。

Q6: 今後の活動のビジョンや方向性、夢など思い描かれていることを教えてください。

所属している研究会での実務従事や福山中央図書館のビジネス相談会においては、会社の名刺を持たない中小企業診断士個人として診断や相談に応じることがとても新鮮に感じられて楽しんでいます。

「企業内診断士の会」の中で参加しているグループの「ビジネス書班」においては、「診断士のアップデート」を昨年の研究テーマとしましたが、試験合格直後から資格取得はスタート地点だと考えていました。以降、資格更新の5年を区切りとして、5年毎に目標を定めており、2回の更新を経た現在を「第三フェイズ」と考えています。

「第二フェイズ」においては、そろそろさび付いてきたかもしれない知識について、マーケティングに関しては「販売士」二級、続いて一級に合格、情報技術に関しては「基本情報技術者」に合格、法務面「民法」については「宅建士」他、不動産関連資格2つに合格することができました。突破できなかった試験もあり、繰越課題です。「第三フェイズ」については、またいつか、機会があればお話ししたいと思います。



New Member

新 入 会 員 紹 介

(50音順)

紹介
2名

正 会 員

木下 真貴子 (きのした まきこ)



皆様はじめまして。木下真貴子と申します。20年間、町工場の嫁として経営を支え、現場の声を肌で感じながら、経営の実務に深く携わってきました。その中で、

企業が抱える労務管理の重要性を痛感し、14年前に社会保険労務士の資格を取得し、社内の労務関連を中心にサポートしてきました。

経営実務に身を置く中で、知識をより深め、自社に限らず中小企業の皆様の悩み解決のお手伝いをしたいと考え、中小企業診断士を志しました。1次試験合格後、福岡県診断士協会の登録養成課程において、1年間広島と福岡を行き来しながら知識と実践を積んできました。そして2024年12月に中小企業診断士として登録いたしました。

「三足目の草鞋」を履くことになった私ですが、これまでの経験が、より広い視野で企業を支援できる力になると考えています。経営に直接携わった経験を活かし、事業承継や廃業といった難しい局面にも寄り添いながら、実体験に基づく支援を行いたいと考えています。

仕事の傍ら、趣味も大切にしています。愛犬と一緒に旅をすることが趣味の1つで、すべての都道府県を巡っています。また、文房具収集も好きで、部屋中にあふれかえっており家族にあきられています。好きなものに囲まれながら、柔軟な視点と発想を大切に、企業の課題解決のお手伝いできればと思っています。

これからどうぞよろしく願いいたします。

正 会 員

内藤 学 (ないとう まなぶ)



皆様、はじめまして。内藤学と申します。令和7年2月に診断士登録し5月に広島県中小企業診断協会に入会しました

出身は広島県福山市で、大学では水産系の勉強をしておりました。卒業後

は東京でコンピュータメーカーにてサーバーやソフトウェア等の代理店営業をしておりました。その後、人と直接関わる仕事にやりがい求め、介護業界へ転身。介護職から相談員、介護支援専門員(ケアマネジャー)と現場の第一線で経験を積み、「ありがとう」という言葉を励みに業務に邁進しております。

中小企業診断士を志したのは、職場で売上向上や人材確保、生産性向上といった経営課題に直面し、体系的な経営知識の必要性を痛感したことがきっかけです。経営やマーケティングを深く学べる本資格に魅力を感じ、挑戦を決意しました。

趣味は、しまなみ海道でのマダイのタイラバという船釣りです。美しい景色の中での駆け引きと、釣った魚を味わうのが何よりの楽しみ

です。

今後は、現在の仕事を続けながら、これまでのITと介護の現場経験を活かし、特に介護事業者の皆様の課題解決に貢献したいと考えております。一日も早くお役に立てるよう、生成AI等の新しい知識も積極的に吸収し、自己研鑽に励みます。諸先生方には、何かとご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

広報委員会からのお願い

会員の皆様からの原稿を募集しています！

診断ひろしまは、年2回（冬夏）発行、毎号500～600部印刷されており、会員約250名と、その他関係機関、研修・セミナー等で会員外の方にも配布しています。支援先企業や自社・所属企業をPRする場としてもご活用ください。

支援先等の
企業紹介

企業支援の
取組事例

補助金
活用情報

業界動向

著書の
紹介

「診断ひろしま」は会員同士の交流や発信の良い場になっていくよう、充実させていきたいと思っています。ぜひ、皆様からの原稿やリクエスト・ご意見をお待ちしております。

ご連絡先

広島県中小企業診断協会
E-mail: jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp



みんなで地元応援！



おすすめのお店・企業紹介 ～支援の現場より～ vol.7

広島市中区／フレンチレストラン

Shimalabo
シマラボ

中小企業診断士 田村 雅紀

心も体も潤う“自然派フレンチ”の真髄 広島『Shimalabo』体験記

高層階から差し込む柔らかな陽の光、広島
の街を一望できる開放的な空間。アーバンビュー
グランドタワーの12階に位置する自然派フレン
チの名店「Shimalabo（シマラボ）」は、訪れた
瞬間から特別な時間が始まる場所です。

私がこの店に初めて足を運んだのは、2月の終
わり、少しずつ春の気配が近づくころ。季節の移
ろいを感じる料理が評判ということで、期待を
胸に訪問。店内に入ると眼下に広がる街並みと、
木の温もりが感じられる落ち着いた空間。ガラ
ス張りの窓からは柔らかな日差しが入り、緊張
も自然とほぐれていきます。

ランチのコースは、一口サイズのアミューズ
から始まり、オードブル2種、メインのお魚と
お肉料理、デザートと続きます。特に私が感動し
たのはオードブルに出てきたマグロのタルタル
です。マグロに合わせて、ビーツやイチゴ、アイ



スプラントに
からすみ（自
家製）といっ
た様々な食材
が入っており、
アイスプラ
ントのプチっ
とした食感や、
からすみの塩
気、イチゴの
酸味などがバ
ランスよく合
わさっており、
唸ってしまう
ほど絶品の美
味しさでした。

メインディッシュで供されたのはマナガツオ。
シェフ独自の火入れによって引き出された旨味
と食感は、まさに絶品。料理に添えられた野菜や
ソースとの調和も素晴らしく、芸術作品のよう
な完成度でした。



そして食後のデザートには、「ガトーシオコラ」
が登場。実はこれ、地元の生産者が困っていた長
期熟成味噌をチョコレートと合わせたサステナ
ブルな逸品。甘さの中にほんのり塩味とコクが
感じられ、島村シェフの「もったいない精神」と
遊び心が凝縮
されたような
一皿でした。

（デザートは
数種類の中か
ら好きな3
品を選べます）



料理の感動を生み出しているのはオーナーシェフの島村 光徳氏です。シェフを務める島村光徳氏は東広島市八本松の出身。フランスや国内の名店で研鑽を積み、広島に戻ってからは「ミクニヒロシマ」の立ち上げに携わり、三國 清三シェフの精神を受け継ぎながら、2017年に「Shimalabo」としてリニューアルオープンしました。地元広島の魅力を料理に昇華させる“地産地消の表現者”であり、この日いただいたランチコースは、彼の哲学が一皿一皿に込められた、まさにアート作品そのものでした。



シマラボでは、広島県内の生産者から直接仕入れた旬の食材を使用しています。例えば、東広島市の渡辺農場で、自然農法で育てられた野菜や、瀬戸内海の新鮮な魚介類など、素材の持ち味を最大限に引き出す調理法で提供されます。

また、シマラボの魅力は料理だけではありません。インテリアには、世界的なプロダクトデザイナー・深澤直人氏による「HIROSHIMA」チェアを採用。木の温もりとミニマルなデザインが、ゆったりとした時間の流れを演出しています。

昼は陽光に包まれた明るい空間で、夜は夜景とキャンドルの灯りが幻想的な世界へと誘ってくれます。どの時間帯に訪れても、食事そのもの

が特別な体験になる、そんな空間づくりがされています。



私がこの日体験したのは、単なるフルコースではありませんでした。一皿一皿に込められたシェフの想い、生産者の情熱、そして自然の恵み——それらすべてが調和し、まるで一本の映画を観たあのような、余韻を残す時間となりました。

広島という地に根ざしながら、世界に誇れる料理を提供する Shimalabo。特別な記念日はもちろん、自分へのご褒美、感性を研ぎ澄ましたいときにも、ぜひ訪れていただきたい一軒です。



【店舗情報】

店名：Shimalabo（シマラボ）
住所：広島県広島市中区上八丁堀 4-1
アーバンビューグランドタワー12F
電話番号：082-511-1618
営業時間：
ランチ：12:00～14:30 (L.O. 13:00)
ディナー：18:00～22:00 (L.O. 19:00)
定休日：月曜日（祝日の場合は翌日）
予約：完全予約制
URL：<https://shimalabo.jp/>

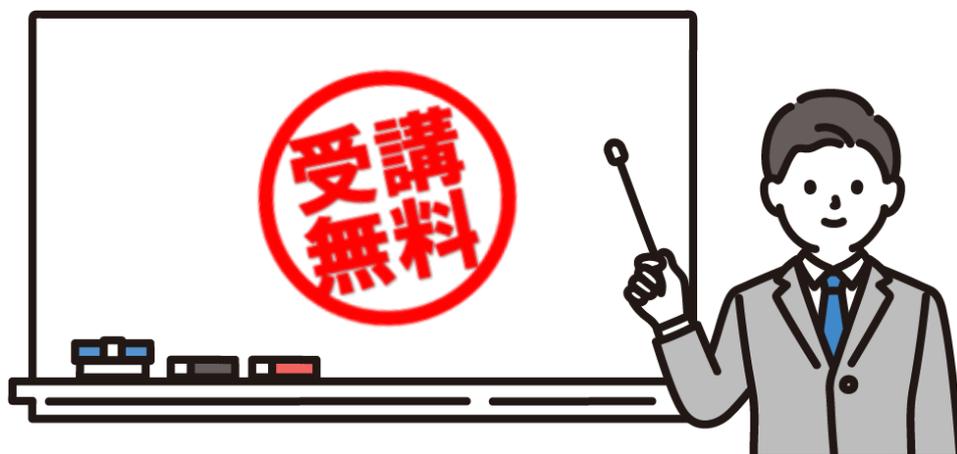
令和7年

グループ研究会 研究成果発表会

2025年9月6日(土) 13:30~

広島県情報プラザ 視聴覚研修室
(広島市中区千田町3丁目7番47号)

- WEB (Zoom) 同時配信
- 終了後に懇親会 (有料) を開催予定



【開催内容 (予定)】

「第15回開催 特別企画 (検討中)」

「企業内診断士の会」発表

「資金繰り表研究会」発表

「日本酒の未来を考える研究会」紹介

詳細が決まり次第、協会ホームページに掲載します

<https://www.hiro-smeca.jp/>

ISO研究会

代表 栗山 琢次

研究会では、ISOの認証取得を目指す企業、認証取得したが経営業績に有効に機能していない企業に対するレベルアップ支援、及び経営改善支援への適用を目指して昨年度は、「プロセスアプローチ」、「リスク及び機会への取り組み」の手法について業種別にマニュアル作りとその運用事例の研究を進めた。



令和7年度活動計画

令和7年度では、ISO認証をめぐる以下3項目の変化を取り上げる。

- ① 昨年来取り組みのリスク及び機会への対応
- ② ISO9001の2026年改訂が進められており2027年8月に要求事項が改定される、切り替えに伴うマニュアル改訂要領の研究
- ③ AIを活用したISO内部監査の進め方、企業への展開の研究

進め方

- ① メンバー構成は、会員5名、オブザーバー参加1名で活動頻度は、1回・2H/2ヶ月で土曜日、活動形態はリモート会議またはリアルとする。
- ② 活動方法は、テーマを絞り日常業務や関連書籍の購読などで業種汎用的な研究とする。
- ③ 活動のテーマとしては、メンバーが業務上関わりを持つ、各種業界、分野のプロセス、システムの改善を進める際にリスク及び機会との関係を整理・理解し、対応する事が重要である。関連する事例を取り上げてマネジメントへの影響、個別の運用プロセスへの展開を研究する。
- ④ AIを用いたISO内部監査計画策定の可能性について研究し、監査チェックリストや監査計画作成の事例を作る。
- ⑤ 意図するアウトプットとしては、企業診断、改善に有効性のあるマニュアル作りとする。

建設業研究会

代表 柳川 治久

建設業研究会での印象的活動を振り返る

当研究会は研究会制度発足の頃から活動している。普段は情報交換や診断手法の共有化を中心に、概ね数人で活動している。会長は加藤 克敏先生から砂口 たくし先生、そして私へと引き継がれてきた。加藤先生・砂口先生は、(一財)建設業振興基金の中国ブロックの統括マネジャーを永く務められ、中国地方整備局のセミナー企画や数多くの受託事業の責任者として活躍されている。その中で私が個人的に印象深かった事例のさわりを簡単にご紹介する。

事例①

「公共土木事業者から住民の日々の暮らしの困りごと全般に対応する建設サービス企業への変革」

岡山県の中山間地域の元請土木企業が、地元で根ざして住民に欠かすことのできない会社へと変身しようとする取り組みを加藤先生が中心となって支援。(平成21年頃から)

事例②

「省エネ対応の地域ブランド住宅を提供する新規の取り組み」

広島県の中山間地域の建設関連事業者が数十者集まり、事業協同組合をつくり、有名住宅メーカーに対抗できる住宅を提供する取り組みを砂口先生が中心となって支援。(平成26年頃から)

事例③

「国境離島において、人材育成グループを結成、島内での資格取得を目指す仕組みの構築」

エリア4島の元請事業者十社余りが賛同し、技術者資格や建設機械の必要資格取得を目指す取り組みを、砂口統括マネジャー主導のもと、私を中心となって支援。(平成28年頃から)



現在は、国土交通省の施策も少しずつ変化し、担い手確保やIT活用などが重視されている。建設業の業際化は急速に進行しているように感じられ、診断士の活躍の場もますます拡大すると思われる。

(一般財団法人建設業振興基金のHPにも、施策や事例集が掲載されている。)

企業内診断士 診断能力向上研究会

研究会広報担当 伊垣 洋介

企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）では、

- ・ 企業内診断士の企業診断等にかかる能力の向上（研鑽）
- ・ 中小企業経営の改善・革新の支援（貢献）
- ・ 診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）



を目的として、活動に取り組んでいる。

会員数については、15年目を迎える今年度は、42名（5月末時点）となっている。

昨年度は、新たな研究グループとして、AI実践能力やITツール活用力の向上を通じた診断能力の向上をテーマに「データサイエンス班」が発足し、時流に沿った活動を通じて、診断能力の向上に取り組んでいる。

今年度の活動計画は、毎月第3土曜日に月例会合を開催し、会員それぞれがグループ研究、個人研究を行い、発表を行っていく。今年度もオンライン＋リアルハイブリッド開催を数回実施する方針であり、対面による交流も実施していく。

なお、7月と11月には、当研究会会員以外の方にもご参加いただけるリアル形式でのセミナー・交流会を計画している。



原価管理研究会

代表 濱上 敬介

1. 活動目的

原価管理研究会は、「原価管理システム」を活用した実践的なコンサルティング技法の調査・研究を目的として活動している。特に、建設業や製造業などにおいて、原価管理の有用性を広く伝え、企業の経営力向上に貢献できるように、知識と技術の向上を目指している。

2. 活動内容と計画

令和6年度は、原価管理の基礎や効果に関する勉強会を実施するとともに、実際に原価管理システムを導入して経営改善に取り組んでいる東広島市内の企業訪問を実施。現場の導入プロセスや課題、成果についてのヒアリングを通じて、実践的な知見の共有を図った。

令和7年度は、以下の内容を中心に活動を行っていく予定である。

●勉強会の開催

会員間での情報交換や学び合いを目的とし、2～3時間／回のリアル開催を3か月に1回程度実施する予定。また、他県の協会との連携による合同勉強会や情報交換会の開催も検討。



●原価管理導入企業への訪問と事例研究

原価管理を経営改善に活かしている企業を訪問し、導入背景や工夫点、効果などをヒアリングする。実際の現場に即した知識を深めるとともに、成果を共有することで、より実務に直結したコンサルティング力の向上を目指す。

事業承継研究会

代表 植田 昌子

平成29年8月の発足から約8年が経過し、現在の会員は38名。事業承継支援のスキルアップ等を目的として活動している。

主な活動内容

●総会開催（令和6年12月）

広島大学 SENDA LAB にて令和6年度活動報告と令和7年度計画、運営などの議事を行った。終了後は場所を変え、忘年会で1年を締めた。

●定例会の開催（毎月第2土曜日 午前）

会場とオンラインの併用で承継事例研究や情報交換などを行っている。今年度は総会で提案された「承継支援の体系的知識習得の強化」を採用し、知識習得の講義とその翌月に講義内容に関連する具体的な事例研究をセットで6回行うこととしている。

●研究会ホームページの作成

会員の協力によりHPを整備した。一般からの相談受付の他、後継者不在が招く脅威や課題、支援者の役割等も分かりやすくまとめられている。

URL:<https://js-hiroshima.hp.peraichi.com/>

セミナー・勉強会

●広島弁護士会との共催勉強会（令和7年6月）

「士業クロスラボ ～弁護士×中小企業診断士が語る M&A～」を6月12日広島弁護士会館 3Fホールで開催した。

勉強会では事業承継に造詣が深く著書も出版している中小企業診断士の鉄本 一生先生と、弁護士で広島県事業承継・引継ぎ支援センターにも携わった桑原 朋子先生のお二人が講師を務めた。

まさしくタイトルの「士業クロスラボ」のとおり、中小企業の M&A をテーマに、下記冊子のお

寿司屋さんの事例を題材として、それぞれの専門性をクロスさせた講演となった。

日本弁護士連合会発行

『さあはじめよう！事業承継マンガでわかる 弁護士と一緒に安心・納得の事業承継』

親族内承継と M&A の2事例が紹介されている。承継の実情が分かりやすくまとめられた一冊。

【ダウンロードはこちら】

<https://www.nichibenren.or.jp/book/>



鉄本先生からは事業の磨き上げや M&A 後の成長戦略、財務・事業 DD、具体的な交渉の裏話などが語られた。また桑原先生からは契約書や法務 DD、法務リスクに潜む悪質業者の事例などについて解説があった。

それぞれの立場から企業支援の視点を共有することで、実践的かつ多角的な学びを得ることができた。また経営・法務両面の協働の意義を実感したことで、継続開催を望む声も出ている。

中小企業を取り巻く問題は、複雑で多岐にわたる。その中で診断士と他士業がそれぞれの専門性を尊重しながら協力し、企業の課題解決にあたることの意義は大きい。またこのような機会があれば診断士の皆さんと共有していきたい。



リスクマネジメント研究会

代表 三村 雅彦

BCP を広めつつ、自分の得意分野を磨きませんか
～リスクマネジメント研究会の活動報告～



1. 令和6年度の活動報告

3回セミナーを開催しました。アンケート結果などを踏まえ、毎回、様々なテーマを選定しています。



- 8月：「自然災害リスクに役立つ補助金」、
「リスクに備える損害保険」
- 12月：「サイバーリスク」
- 2月：「豪雨災害被害を経験して」、
「中小企業のリスクマネジメント」、
「事業継続力強化計画とは」

2. 令和7年度の計画

3回のセミナーを開催します。1回目は8月に
労務管理系のテーマで開催予定です。

3. 研究会について

メンバーは約10名。診断士を中心としつつも、行政機関、弁護士、元
銀行員、損害保険会社メンバーなどバラエティに富んでいて、異業種交流
会です。

2025年2月開催の
セミナーの様子



知的資産経営研究会

代表 森島 重樹

主な活動実績

◆知的集会開催（毎月第1火曜日開催の例会）

知的資産経営に関する情報や他県の知的資産研究会の活動内容を共有している。

今後の計画

◆知的資産経営サミット2025 in 広島開催

知的資産経営サミットを令和7年11月8日に福山のふなまちベイホールで14:00～17:00で開催予定。他府県の研究会の知的資産経営支援事例を広島県内の金融機関、支援機関、事業者等に紹介し、知的資産経営の認知度を向上させることを目的として開催する。森下 勉先生による知的資産経営入門講座、大阪の株式会社グランディユー代表者による事例発表、全国の研究会からの活動報告等を予定しており、終了後は懇親会も予定。参加は各都道府県の知的資産経営研究会、広島県内及び近隣の金融機関、広島県内支援機関、事業者等で全国から80人、オンライン100名の参加を見込んでいる。

◆ローカルベンチマークのワークショップ開催

金融機関等からローカルベンチマークのワークショップ開催の提案があり、実施検討中。

◆知的資産勉強会の開催

会員の知識習得とスキルアップを図るため、

オンラインとリアル（広島と福山で交互開催）の勉強会を開催予定。

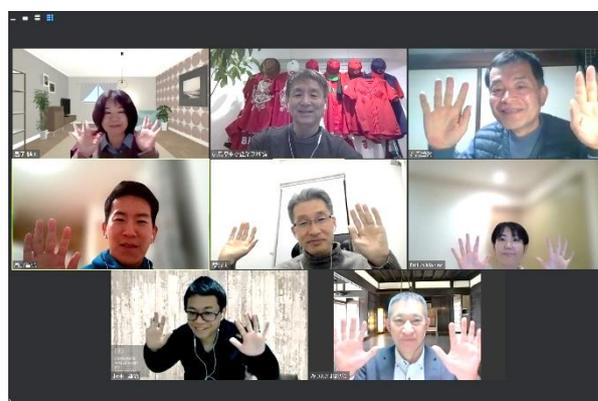
◆他県知的資産研究会への参加

他府県の知的資産経営研究会から勉強会参加案内があり参加を検討。

研究会メンバー

森島 重樹	牧野 恵美子
綿谷 伸二	植田 昌子
益野 実	大形 光昭
高野 智也	大村 真司
林 晃司	城川 雅晶
高木 健次	原田 涼平
中尾 太	田村 雅紀
川口 明彦	

（計15名 2025年5月現在）



NEW

日本酒の未来を考える研究会

代表 綿谷 伸二

今年4月に発足した新しい研究会です。

本研究会は、日本酒業界の現状を調査研究すると共に、「酒どころ広島」の日本酒産業におけるブランド価値の再構築と市場拡大を支援することを目的として活動していきます。

研究会設立の背景

少子高齢化や人口減少など人口動態の変化、消費者の低価格志向、ライフスタイルの変化や嗜好の多様化等により、国内の酒類販売市場は全体として縮小傾向にあります。特に、日本酒の課税数量は、昭和48年度のピーク時(177万KL)から、令和3年度には3割以下の40万KLまで減少するなど日本酒の消費量は減少の一途をたどっています。さらに、コロナ禍以降、家飲み文化が浸透し、飲食店への客足も以前の状態までには戻っていません。しかも、日本酒以外の新たな酒類の存在により、今後日本酒の消費はさらに減少する懸念があります。

一方、日本酒などの「伝統的醸造」がユネスコ無形文化遺産に登録され、今後インバウンド客を中心に日本酒需要が高まる期待もあります。

このような状況下において、本研究会は、広島県で活動する中小企業診断士として、県内外の酒造会社の現況を把握し、ありたい姿およびそのための課題を整理し、施策実行を支援することで、「酒どころ広島」の日本酒産業におけるブランド価値の再構築と市場拡大を支援することを目的として設立しました。

主な活動内容

- ・日本酒学の知識習得
- ・日本酒業界の動向調査および研究
- ・広島県の日本酒製造業、卸売業、小売業などの調査および研究
- ・他研究会（事業承継研究会、知的資産経営研究会など）との共同作業による日本酒業界支援策の研究

研究会発足会を実施

5月17日（土）、酒都西条の「蔵処 樽」で研究会発足会を実施しました。



設立メンバー：左から、大形、植田、綿谷



総務委員会

総務委員長 田村 善光

1. 活動方針と委員会体制

総務委員会は、当協会の円滑な運営への寄与を活動方針とする。委員長に田村 善光、副委員長に渡辺 敏明、委員に中尾 友和、廣岡 雅史、濱上 敬介、岩崎 美友紀、小野 信雄の7名体制で活動する。



2. 活動計画

総務委員会では、以下の活動を行う。

(1) 総会及び理事会の企画・運営

- ・ 通常総会（場所：メルパルク広島）
6月7日ハイブリッド開催実施
- ・ 理事会
4月14日ハイブリッド開催実施
8月20日開催予定
11月19日開催予定
2月18日開催予定

(2) 広島自由業団体連絡協議会

士業12団体で、よろず相談会の打ち合わせ、士業間の情報交換会を実施。
第1回 7月22日予定
第2回 未定

(3) よろず相談会

11月11日予定
場所は広島市役所講堂で、士業12団体が参加予定。

(4) 無料ビジネス相談会

広島市立中央図書館、福山市中央図書館で月1回開催。各図書館に事前申し込みのあった相談者に対して当協会員が対応。
但し、今年度は広島市立中央図書館の開催は移転ため、9月までの開催の予定。

(5) 中国ブロック連絡会議・勉強会

中国ブロック連絡会議は、岡山県で10月に開催予定。本部と中国5県の診断士会との交流を図る。
勉強会は、広島県で1月に開催予定。中国5県診断士会の勉強会。

(6) 創業相談会

日本政策金融公庫及び当協会を含む8団体による創業支援無料相談会であるが、今年度の実施は未定。

(7) 会員交流会

当協会の会員同士の親睦を図ることを目的としており、会員交流会日は未定である。

(8) その他総務事項の推進

広報委員会

広報委員長 古川 佐千夫

1. 委員会メンバー

令和7年度の広報委員会は、委員長に古川 佐千夫、副委員長に本庄 恭子、委員に青谷 智晃、伊垣 洋介、三本木 至宏、田村 雅紀、土井 誠、原 信之介の合計8名の体制で遂行する。



2. 活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う計画である。

(1) 協会広報誌「診断ひろしま」の発行

診断ひろしまでは、協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や診断士コミュニティ（随筆見聞録、書籍出版紹介、診断士リレー訪問記、新人会員紹介、企業紹介）等を掲載する。

本年度は7月（本号）と1月の2回の発行を計画している。



(2) 広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、広報活動を行う。具体的な活動内容については今後の委員会にて検討を行い決定していく。

試験委員会

試験委員長 木村 義洋

試験委員会は、後述する委員会メンバーが活動方針に基づき、広島地区で実施する中小企業診断士第一次試験、第二次試験（筆記・口述）の計画の立案、運営業務を協会事務局と協力しながら実施する。



1. 委員会メンバー

委員長	木村 義洋	委員	岩井屋 忠昭、植田 昌子、馬上 元彦、梅木 雄司、 内藤 憲、藤原 貴徳、牧野 恵美子、渡部 宗広
副委員長	松浦 由浩		

2. 活動方針

(1) 中小企業診断士試験受験者が試験会場で本来の実力を発揮できるようにするため、『安心・安全・快適な受験環境づくり』と『不正防止の徹底』に全力で取り組む

(2) 広島県中小企業診断協会が質の高い試験事業を継続して実施できるようにするため、『試験業務の改善』と『試験監督者・試験運営員の育成』に継続して取り組む

3. 令和7年度中小企業診断士試験日程

(1) 第一次試験	(2) 第二次試験（筆記）	(3) 第二次試験（口述）
令和7年8月2日・3日（土・日）	令和7年10月26日（日）	令和8年1月25日（日）

4. 活動内容

昨年度も多くの協会会員の皆様にご協力いただき、中小企業診断士試験の運営を無事に終えることができた。心より御礼申し上げます。

年2回（6月、9月）の試験委員会では、委員会メンバーの間で試験実施の注意事項の確認、皆様からいただいたご意見、ご感想の共有等を行っている。また、kintoneを活用し、協会事務局や委員会メンバーの間で試験業務の報連相を行っている。

試験委員会では今年度も引き続き、中小企業診断士試験受験者のため、また、広島県中小企業診断協会のため、試験業務の確実な実施と更なる改善に取り組むこととしている。さらには、試験事業を通じて、広島県中小企業診断協会と会員とのつながりをより強くしていきたいと考えている。新入会員・協会との接点の少ない会員を含め、皆様には、中小企業診断士試験の運営に積極的かつ前向きなご協力をお願いしたい。

診断実務委員会

診断実務委員長 落野 洋一

今年度の診断実務委員会は以下の内容で活動する。

- ① 中小企業診断士の登録要件である実務補習
- ② 登録更新に必要な実務従事ポイント取得のための実務従事

今年度も実務補習・実務従事の指導員登録者の増員・育成を重点事項として取り組んで行く。



委員長	落野 洋一	委員	野崎 義博、佐伯 昌之
-----	-------	----	-------------

令和7年度中小企業診断士 実務補習

1. 夏季コース（8日間コースのみ）

RCC文化センター

第1回：令和7年7月10日（木）～7月22日（火）

第2回：令和7年9月11日（木）～9月22日（月）

2. 冬季コース（15日間コース・8日間コース）

RCC文化センター（予定）

第1回：令和8年2月20日（金）～3月2日（月）

第2回：令和8年3月6日（金）～3月16日（月）

令和7年度中小企業診断士 実務従事

10月、または11月で1回実施を予定

更新研修委員会

更新研修委員長 金田 賢二

1. 委員会メンバー

令和7年度の更新研修委員会は、委員長に金田 賢二、副委員長に塩田 睦大、委員に高木 健次、藤川 裕志、宮坂 夕貴、森島 重樹の合計6名の体制で遂行する。



2. 活動内容

更新研修委員会は、中小企業診断士の登録に必要な5年ごとの「知識の補充要件」の更新要件を満たす研修の実施を目的としている。受講者の要望を汲み取り、時世にあった研修を開催できるよう、会場や講師など運営に携わる内容、委員会の協議により決定し、協会事務局と協力しながら運営・実施していく。

3. 本年度の理論政策更新研修の予定

本年度は、3回の研修を予定している。

第1回	令和7年 8月30日(土)	13:00～17:30(定員80人) 「新しい中小企業施策について」 「中小企業の事業継続力強化計画策定支援」	福山商工会議所101号室(広島県福山市西町2-10-1)
第2回	令和7年 10月4日(土)	13:00～17:30(定員90人) 「新しい中小企業施策について」 「中小企業の海外展開支援」	リモート開催
第3回	令和7年 11月29日(土)	13:00～17:30(定員140人) 「新しい中小企業施策について」 「中小企業の人材戦略支援」	広島県情報プラザ多目的ホール(広島市中区千田町3-7-47)

インターネットでの受講申し込みについては下記を参照ください。

「理論政策更新研修ネット申込の手順」

<https://www.jf-cmca.jp/attach/rironkenshu/mousikomitejun.pdf>

会員研修委員会

会員研修委員長 上垣内 邦典



1. 委員会メンバー

令和7年度の会員研修委員会は、下記の計4名体制で遂行する。

委員長	上垣内 邦典	委員	大島 季子、山口 卓、 伊藤 大介
-----	--------	----	----------------------

2. 活動内容

会員研修委員会は、協会員診断士のスキルアップを目的として、会員研修を企画・開催する。

会員研修および委員会は、参加者のスケジュール自由度の確保を重視して、本年度も基本的にZoomを用いたリモート形式で行うこととする。

3. 本年度の会員研修の予定

本年度は、3回の会員研修を予定している。研修内容は、「企業内診断士向け」を2回、「独立診断士向け」を1回という配分で実施する予定である。

第1回会員研修	令和7年8月頃
第2回会員研修	令和7年10～11月頃
第3回会員研修	令和8年2～3月頃

また、各回の会員研修に先立って会員研修委員会を開催する予定である。

グループ研究委員会

グループ研究委員長 岩田 潤一

1. 新規研究会の設立促進

新規研究会の設立に向け、研究会メンバー募集等の支援を行う。



2. 研究会活動のPR

研究会活動PR小冊子の掲載情報を更新し、協会HPで公開するとともに、様々な機会を捉えPRを実施する。

3. 研究会活動支援

①グループ研究会連絡会議

研究会相互の連携を図るとともに、研究会活動活性化に向けた諸課題を議論するため、各研究会代表による連絡会議を開催する（令和8年2月1日（日）開催予定）。

②調査研究活動補助費の支給

研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会設立意欲を高めるため、グループ研究会の活動にかかる費用の一部を補助する。

4. 研究活動成果の発信

会員相互の研鑽の場を提供するとともに、研究会参加を契機とした協会への新規入会を促進するため、研究テーマに関する発表会を開催する。

研究活動成果発表会 開催概要

開催日	令和7年9月6日（土）
場所	広島県情報プラザ 視聴覚研修室 （WEB同時配信）
発表内容	「第15回開催 特別企画（検討中）」 「企業内診断士の会」 「資金繰り表研究会」

令和7年度 年間主要行事日程

日 付	行 事
4月14日(月)	第1回理事会
6月7日(土)	令和7年度総会
7月10日(木)～7月22日(火)	実務補習(夏季7月コース)
8月2日(土)3日(日)	第1次試験
8月20日(水)	第2回理事会
8月頃 未定	第1回会員研修
8月30日(土)	第1回理論政策更新研修(福山会場)
9月6日(土)	グループ研究会 研究成果発表会
9月11日(木)～9月22日(月)	実務補習(夏季9月コース)
10月4日(土)	第2回理論政策更新研修(リモート開催)
10月26日(日)	第2次試験(筆記)
10月または11月	実務従事
11月頃 未定	第2回会員研修
11月11日(火)	よろず相談会 広島自由業団体連絡協議会
11月頃 未定	第3回理事会
11月29日(土)	第3回理論政策更新研修(広島会場)
1月25日(日)	第2次試験(口述)
2月頃 未定	第4回理事会
2月20日(金)～3月16日(月)	実務補習(冬季8日間コース、15日間コース)
2月頃 未定	第3回会員研修

最新情報は広島県中小企業診断協会ホームページ「協会について>活動計画」でご確認ください。

事務局からのお知らせ

1. 法人名称変更のお知らせ

本部（連合会）に合わせ令和7年10月1日から法人名を下記のとおり改称いたします。周知にご協力よろしくお願ひします。

住所、電話番号、メールアドレスなどは変更いたしません。

【新法人名】 一般社団法人 広島県中小企業診断士協会

本部（連合会）の法人名も、令和6年10月1日付で下記のとおり改称しています。

【新】日本名 一般社団法人 日本中小企業診断士協会連合会（略称「日診連」）

英文名 Japan Federation of Certified Management Consultants' Associations
（略称「JF-CMCA」）

HP ドメイン <https://www.jf-cmca.jp/>

研修受講証明書、試験合格証書に記載されている発行元法人の名称は、令和6年10月1日以降発行するものから変更になっています。

連合会総務部 電話番号：03-3563-0851 メール：news@jf-cmca.jp

2. キントーンご利用のお願い

令和5年度からキントーンを通じて理論政策更新研修の案内など会員向けの情報発信しております。

キントーンから案内が届いていない方、使い方やID、パスワードがご不明の方は事務局まで電話やメールでご連絡ください。



3. コンプライアンス研修受講のご案内（正会員の方へ）

正会員の方は本部マイページよりコンプライアンス研修を受講してください。受講の仕方が不明な方は、県協会ホームページのコンプライアンスページを参照されるか事務局までお問い合わせください。

中小企業診断士にはコンプライアンスの遵守が強く求められています。未受講の方は必ず受講してください。また事業受託の必須条件としております。

4. 専門家登録の案内および情報更新のお願い（正会員の方へ）

広島県中小企業診断協会では各支援機関より様々な中小企業支援事業を受託しております。受託した案件については、正会員の中で専門家登録をいただいている方に、随時依頼または公募を行っております。

まだ専門家登録をされていない方は是非とも登録していただき、大いに活躍して頂きますようお願いいたします。

また、すでに登録されている専門家の方は登録内容に変更のあった場合（経験年数の更新を含む）には、随時更新していただきますようお願いいたします。

登録手順につきましては、事務局（jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp）まで直接ご請求ください。

編集後記

本広報誌の発行にあたり、ご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

この春、広島駅に新しい駅ビルが開業しました。街の顔として大きく生まれ変わったその姿に、変化していくことの重要性と必然性を感じました。

市場環境やテクノロジー、顧客ニーズ、働き方、社会の価値観など、中小企業を取り巻く環境は、今なお大きく変化を続けており、経営者は日々「何を変え、何を変えないのか」の意思決定を迫られています。何かを変えるには、情報、勇気、覚悟、それを支える気力と体力が必要です。経営者の重みある選択に、中小企業診断士として、伴走者として、寄り添い背中を押せる存在でありたいと思っています。

この広報誌もまた、中小企業診断士の活動を広く紹介するとともに、会員の皆さまにとって役立つ情報源となるよう、より充実させていきたいと考えています。引き続き、ご意見・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

広報委員会 副委員長 本庄 恭子



一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第93号

発行：令和7年7月18日（年2回発行）

発行人：会長 井上 明雄 編集人：広報委員長 古川 佐千夫

会員数

244名

令和7年7月時点
正会員・準会員・特別会員
含む。休会員は含まない

記事やお知らせ募集中！お気軽にご連絡ください



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

Hiroshima Small and Medium Enterprise Management Consultant Association

〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL：(082) 569-7338 FAX：(082) 569-7336

E-mail: jsmecca34@sunny.ocn.ne.jp

www.hiro-smeca.jp

「診断ひろしま」の
バックナンバー公開中

